めいろうこどもえん　4月園だより

２０１８年度　年主題　〈イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で〉

0･1･2歳児４月主題　「つつまれる」

月のねがい

◎神さまの愛に包まれて守られていることを知る
◎保育者に守られ、生活や遊びを経験してゆく
◎１人ひとりの育ちを大切にされていることがわかり安心する

3･4･5歳児４月主題　「包まれる」

月のねがい

◎神さまの愛に包まれていることを感じながら過ごす
◎進入児も進級児も不安やはりきりを受け入れられて、新しい生活を始める
◎保育者と保護者の信頼の中で安心して育つ

今月の聖句　「わたしは、よみがえりです。いのちです。」　ヨハネ 11:5

２０１８年４月１日はキリスト様の復活を記念する日です。すべての人が死に向かっている人生の旅、行き着くところはいつか死ぬということ。人は死を忌み嫌いかつ恐れています。でも、心配しないでください。イエス･キリスト様が人間に復活があることをはっきり示してくださったのです。復活を信じて希望を持つ者には大きな福音です。

さて、種子島シオン学園がめいろうこども園、きりすとこども園を立ち上げてちょうど６０年を迎えました。あらたな61年目の始まりにあたって、園章のいわれについて書きたいと思います。中心の「幼」は園児の皆さん。アルファ「Ａ」とオメガ「Ω」のギリシャ文字を組み合わせた図形が上下左右あるいは、東西南北から幼の字を取り巻いています。アルファ「Ａ」はイロハの「イ」にあたり「はじめ」を、「Ω」オメガは「ン」で「終わり」の意。ＡとΩには特別な意味があります。神はご自分のことを「我はアルファなりオメガなり」「初めなり、終わりなり」といわれたのです。

したがって、園章は神様が園児を東西南北すべての方向から見守り支えておられるという意味です。

前理事長　池田公榮

４月の行事予定

７日（土）	入園式・始園式(親子で降園)
9~13日	新入園児午前保育(1号)
１１日（水）	田植え（予定）
２１日（土）	親子遠足，父母会総会
２６日（木）	４月誕生会

５月の行事予定

１日（火）	交通安全教室
８～18日	家庭訪問
１０日（木）	給食試食会(こすもす･たんぽぽ)
１７日（木）	５月誕生会
〃	給食試食会(すみれ)
２６日（土）	家族の日参観
２９日（火）	消防署見学(こすもす･たんぽぽ)弁当日
３０日（水）	〃　(すみれ･あじさい)

新入園の保護者の皆様へ

初めてお母さんと離れての新しい生活は、入園当時の幼児にとっては、とても大変なことです。幼児たちが慣れるまで１週間ほど、疲労を考えて午前保育となります。帰宅しましたら、矢継ぎ早に園の様子を聞くのではなく、お子さんが落ち着いてから少しずつ聞いてください。分からないこと、不安に思うことがありましたら、気軽に職員に声をかけて、お子さんの様子などお聞きください。

また、睡眠も十分にとって、朝も、「いっぱい遊んでおいでね！」と送り出してあげてください。お子さんの体調や心配事など遠慮なく、連絡帳や電話で担任にお知らせくだされば幸いです。

ようこそ！めいろうこどもえんへ

菜の花や山桜が咲き終わり、ポカポカの春がやってきました。4月2日は朝から泣き声の大合唱、入園式より一足先に2号、3号のお友だちの慣らし保育が賑やかに始まりました。

初めて家族の方と離れて過ごし、不安いっぱいの子どもたち。先生たちに抱っこされ少しずつ落ち着いてきました。そして、外に出るとちょうちょやダンゴムシ、うさぎや色とりどりの花に目をキラキラさせていました。いっぱい泣いて、ゆっくり慣れていこうね。

進級したお友だちは新しい保育室に少しドキドキしながらも、以前のクラスの先生に"僕たちお兄ちゃんになったよ"とニコッと笑顔をのぞかせてとても嬉しそう！！ちょっと張り切りすぎて、家で疲れを見せたり、いつもより甘えたりするかもしれません。"頑張ってるね"とぎゅーっと抱きしめてあげると、きっと心のパワーが充電されることでしょう。

こども園で夢中になって遊び、お友だちとかかわり、毎日楽しい！！と笑顔で過ごせる一年となりますように心からお祈りしています。楽しいことをたくさん見つけましょうね。

大河

交通安全教室

親子遠足

入園式

田植え

神さまの愛に包まれて　二〇一八年度

心地よい春風が、白や赤に咲き誇るツツジの花をそよがせています。木や花や遊具、そして園舎までもが、愛らしい子どもたちが来るのを楽しみにしているようです。ご入園、ご進級おめでとうございます。改めて続くご縁と新しいご縁を心から感謝し、子どもたちの健やかな育ちを共に願い、祈りを重ねていきたいと思います。昨年度は、節目の創立六十年を迎えることができて感謝でした。次の七十年を目指して、気持ちを新たに、新しい一年を一同邁進していきたいと思います。

本年四月から、幼稚園教育要領、保育所保育指針、そして幼保連携型認定こども園保育要領が改訂され施行されました。その基盤となる概念は、目に見える、分かりやすい（認知的）能力を促進していくことより、子どもの気持ちや意欲など、実態を掴みにくい能力（非認知的）を重視する方向にあるようです。まさにキリスト教保育が大切に受け継いできた「見えないものに目を注ぐ」保育そのものではないかと思います。それ故に、自分たちの日々の実践を振り返り、常に評価を繰り返すことの大切さを再認識することができました。

本学園の建学の精神である「敬神愛人」「探求・感謝」には、人間形成の基礎を培うべく心を育てたいという願いが込められています。遠い将来の準備ではなく、幼いときにこそ経験しなければならないものがあるのではないでしょうか。子どもたちが自分で発見するモノや動植物たち。考えながら創り出していく遊びの数々。不思議だなと感じること。明日もまたやりたいという意欲や探究心を何よりも私たちは守らなければなりません。そのために、保護者の皆さんにも、多くの場面で楽しんで関わっていただきたいと願っています。子どもの育ちには、**「タイケン・タンケン・タイヘン」**が必要だと考えています。保育活動や行事で味わう体験。未知の世界へ興味・関心を寄せる探検。そして、少し大変なことにも挑戦する意欲。今年もこのキャッチフレーズでともに育ってまいりましょう。

集団生活を初めて経験する子どもたちにとって、園生活は期待と不安の混じったものでしょう。初めての環境は大人でも緊張します。何より「だいじょうぶだよ！」という言葉が安心へと導きます。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と聖書にあります。神さまが与えて下さるこの環境の中で、**愛に包まれて**生かされていることを喜べる生活を共に目指していきます。あるがままの”自分”をしかっかりと生きていけるよう祈りつつ、保護者の皆様と心を込めて寄り添っていきたいと考えております。六十一年目を迎える本年度も、職員一同心を尽くして努力して参りますので、ご支援の程を宜しくお願いいたします。

園長

キリスト教保育とは

乳幼児期は人間の生涯の基礎が形成される時期で、この時期に培われたものが生涯の生き方の基板となると言われています。
この大切な時期の子どもたちの成長に関わりを持つ保育者として、使命の重さを思わずに入られません。

キリスト教保育では、子どもも大人も神によって創造され、生命を与えられた、一人ひとりがかけがえのない存在であり、神の恵みの中に生かされていると考えられています。

目に見えない神の愛を子どもたちに知らせるのは大変難しいことですが、キリスト教保育を通して、見えない神の恵みを感じ、神の導きに信頼して幼児なりの思いを持つことができるようになるのです。

乳幼児期は親や保育者のあたたかな愛ある養護を受けることによって、信頼感が芽生え安定します。このような安定感は、集団生活での友だちや周囲の大人たちとの人間関係にも影響し、人に愛され受入れられていることによって、互いに愛し合う交わりの世界を経験し、神の愛を知る素地が養われていきます。

キリスト教保育の目的は、神に愛されている自分を知り、神の愛に応答して生きるものとなると共に、他者もまた神の愛される存在であることに気づき、よき隣人として生活できるようになることであり、「生活のすべてを通して伝えられていく」ということができます。

抜粋
『新・キリスト教保育者必携』より

幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿

改訂　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

本年４月１日から「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂され施行されます。今回初めて就学前までに獲得したい姿の方向性が示されました。

1　健康な心と体
2　自立心
3　協同性
4　道徳性・規範意識の芽生え
5　社会生活との関わり
6　思考力の芽生え
7　自然との関わり・生命尊重
8　数量・図形、文字等への関心・感覚
9　言葉による伝え合い
10　豊かな感性と表現

これは最終的な到達目標ではなく、あくまで方向性を示したものと捉えて下さい。日々の保育を通して、この姿の方向へ向かっているかを評価しつつ、保育の改善に活かしていくものです。「姿」とは、遊びや生活を通して現れる様々な様子のことですから、ある時点の「できた」「できない」を見るのではなく、ある程度のスパンで捉えるものだと考えています。小学校との連携の中で、引き継いでいただくものでもあります。